

次世代に受け継ぐ

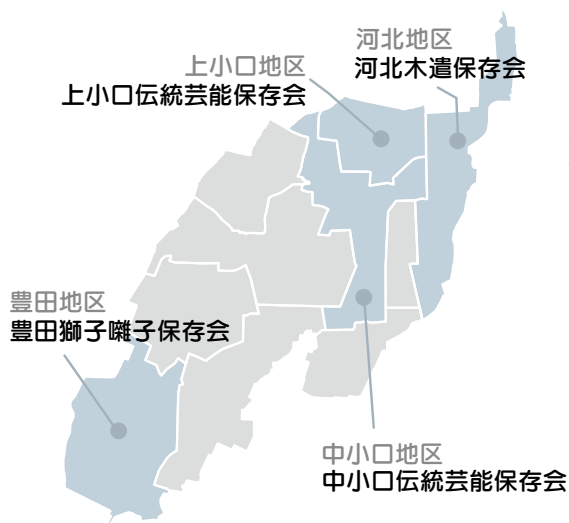
大口町の伝統芸能

「伝統芸能」とは、日本の長い歴史と伝統の中から生まれ、守り伝えられてきた日本古来の芸能を指し、歌、音楽、舞踊、工芸など分野は多岐にわたりますが、主に儀式や祭事に付随するものとして各地でおこなわれています。

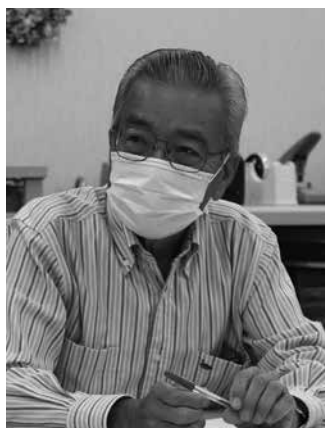
大口町では、江戸時代より各地区で獅子神楽を神社に奉納し、村内安全、五穀豊穡を祈願しお囃子（はやし）（笛太鼓）や木遣り（や）などお祭りをおこなってきましたが、明治初年ごろから自然に途絶える地域がでてきました。

その後、昭和53年に豊田獅子囃子保存会が発足。河北木遣保存会・上小口伝統芸能保存会・中小小口伝統芸能保存会それぞれの団体も継承に取り組み、大口町主催の伝統芸能発表会にも出演しています。

各保存会は古くから口伝で伝わる貴重な技術や伝統を、絶やすことのないよう受け継ぎ、有志の皆さんで日ごろから研鑽を積んで披露と普及に努めていらっしやいます。今回の特集では、大口町主催の伝統芸能発表会に参加されている保存会の皆さんをご紹介します。



▲平成8年の金助桜まつり
野外ステージで子どもたちと



代表 社本巨さん

地域の絆とともに
永遠に文化を継承



豊田獅子囃子保存会

上小口伝統芸能保存会



未来に引き継ぎ、守りたい。これも地域づくり

代表 吉森文夫さん



ミニケースシヨンの場なのですが…

―獅子屋形の彫刻を見たり、お囃子を聞いたりするのも伝統芸能発表会の楽しみの一つですね。伝統芸能の中でも、最も難しいのが笛だそうですが、皆さん、覚えるのに苦労されたとお聞きしていますが。

吉森 なにしる譜面がないんです。教わった先輩方の指の動きを見て覚えまして。

安藤 向かい合って教わるので、左右逆で覚えてしまつんですよ！（笑）逆になるのを防ぐために後ろから手元をビデオで撮るなどして工夫しました。フルートや尺八の経験がある人はすぐできるようなのですが、音を出すのに一苦労です。

社本 また、元々が豊作を祈る神事に捧げる唄が多いので、農業や雨降りに関する内容なのですが、いわれや資料などがありません。言い伝え、聞き伝えなので同じ曲でも地域によってだんだん違ってきます。それも「伝統」の味わいなのです。

吉森 私は曲をテープに録音して毎日聞き、リズムを叩き込みました。1曲覚えるのに半年かかりましたが、その分達成感もいっぱいでした！

―保存会の皆さんは、日頃から練習を積み重ねて守ってこられた伝統芸能を、年間の行事で披露されていますね。特に、4月の第1日曜日に堀尾跡公園で催される春の伝統芸能発表会（金助桜まつり）と10月の最終日曜日に小口城址公園で催される秋の伝統芸能発表会は、五条川の桜並木や澄み切った秋の空の下で開催される大口町を代表する伝統行事とあって、毎年多くの人でにぎわい、格式高い伝統芸能を堪能できる人気の行事です。町民の皆さんも、春と秋のこの2つの行事で大口町に伝わる伝統芸能を知ったという方が多いのではないのでしょうか。

安藤 昨年は多世代が集う憩い広場で、初めて4つの保存会が集まる秋の伝統芸能発表会が予定されていましたが、コロナ禍で中止となつてしまいましたね。

社本 豊田獅子囃子保存会は山車の高さ制限などで運搬が難しく、毎年秋の伝統芸能発表会には不参加でした。昨年は一緒に参加できると楽しみにしていたんですが、残念でした。**宮田** 披露の場や、練習で集まることもできなくなり、寂しい限りです。**社本** 練習のために定期的に集まるのも、地域の情報交換をする良いコ

河北木遣保存会



伝統芸能は地域の結束力に結びつく

代表 宮田和美さん

宮田 木遣りは演舞の中で唄を歌い腰を低く落として前進しなければならぬのです。これが、年齢とともにきつくなってきた(笑)。

社本 獅子屋形の引き回しも、とても体力がいります。細い道を通るときは、後ろから車がこないかドキドキです。獅子屋形を寄せたり方向を変えたりするのはとても大変なのです。いざ車が来たときは声を掛け合せて力を合わせて動かしします。

―皆さん、日ごろの練習があつてこそその息の合った演奏や演舞なのでしょう。練習の中でご苦労されているからこそ、結束も高まりますね。

宮田 練習後はメンバーとの絆を深めるコミュニケーションの場になります。それが楽しみであり励みでもあります。今はコロナ禍で公共の練習場が使えなくなりました。**安藤** 中小口は今年、秋祭りの規模を縮小しておこないました。新型コロナウイルス感染症が早く終息して開催できることを願うばかりです。

―披露の場がないと、次世代への継承も難しくなっていますね。

宮田 どの会も、会員数は10から20人ほどで、最近は親子で入ってくだ

さる方や比較的若いメンバーもいます。河北木遣保存会には2年前に女性が2人入ってくださいました。純粋に、演舞を見て興味を持ってくださったようです。

吉森 うらやましいですね。本来神事は男性のみという風習が続いていましたが、時代の趨勢とともに柔軟になってきたようです。どの保存会でも女性や子どもも大歓迎だと思います。

宮田 若いといえば、毎春秋に北小学校で「ふるさと大口・お祭りたいけん広場」という催しがあり、北小学区の上小口伝統芸能保存会、中小口伝統芸能保存会、河北木遣保存会が北小学校に獅子屋形や木遣りのご神木、楽器などを持ち込み、子どもたちに芸を披露したり体験してもらっています。昨年度はコロナ禍のため中止となりましたが、今年度は感染対策をおこないました。

安藤 子どもたちの楽しそうな様子を見ると、私たちも元気が出ますね。子どもたちはとりわけ獅子頭と笛が大好きですよ！ みんなに音を出す体験をもらっています。音が出たときは歓声があがり、私たちもうれしい気持ちになります。

中小口伝統芸能保存会



まつりの音を絶やさないために

代表 安藤邦彦さん



吉森 やはり実際に見て触れてもらってこそ興味を持ってもらえるので、このような機会を大事にしたいですね。

社本 豊田獅子囃子保存会には、親子で参加してくださっているメンバーもいます。親御さんが熱心だと、お子さんも未永く頑張ってくれます。**安藤** ぜひ、親子で参加してもらいたいです。子どもたちの存在はやはり華やか。子どもさんたちに興味を持ってもらえるとうれしいなあ。

—最後に、皆さんの伝統芸能への想いをお聞かせください。

吉森 古来から引き継がれた伝統芸能を我々が守り受け継ぎ、未来へつなげていくという使命感があります。これも地域づくりにつながっていると思います。

社本 地域の宝を、ぜひ未永く引き継いでいってほしい。「継続は力なり」で、地域の活性化につながってほしいと思います。

安藤 後継者が気がかりです。まつりの音を絶やさないよう引き継いでいってほしいです。

宮田 「1年でも長く続けたい」というのが保存会全員の願いです。それには、毎年の行事での披露の場が

欠かせません。早く日常生活を取り戻し、また元氣な掛け声を掛けながら息の合った演舞や演奏ができる日がくることを心待ちにしています！

取材にて

高らかな拍子木の音と「ヤーラーヨオ、ヤーアラセー」という息の合った掛け声、そして笛や太鼓の見事な演奏、これらは春と秋の芸能発表会で披露される「伝統芸能」の一幕です。楽しくウキウキした気持ちになると同時に、不思議と誰もが神に祈るような厳かで神聖な気分になります。日本人は古来より、1年の収穫を祈り、感謝する神事としてこの神に捧げる唄や踊りを毎年欠かさずおこなってきました。時代は下り、保存会の皆さんが真剣に芸を磨き「良いコミュニケーション」と口をそろえておっしゃるのを聞くと、現代では本来の意味を超え、日本文化の継承と地域の結束という新たな意味を帯びて存在し続けていると感じます。

1月号は豊田獅子囃子保存会・河北木遣保存会・上小口伝統芸能保存会・中小口伝統芸能保存会の活動をご紹介します。